

研究機関名：東北大学

受付番号：	2011-231		
研究課題名	ストレスと消化性潰瘍の関連に関する検討－東日本大震災被災地区基幹病院での多施設調査－		
研究期間	西暦	2011年	10月（倫理委員会承認後）～2012年
			9月
対象材料	<input type="checkbox"/> 病理材料（対象臓器名） <input type="checkbox"/> 生検材料（対象臓器名） <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input checked="" type="checkbox"/> その他（診療録）		
上記材料の採取期間	西暦	2010年	3月～2011年
			6月
意義、目的	<p>身体的及び精神的ストレスにより消化性潰瘍が惹起されることが、動物実験では確認されている。ヒトにおいても、ストレスと消化性潰瘍との関連は古くから指摘されていたが、<i>H. pylori</i> 感染が薬剤性潰瘍を除く大部分の消化性潰瘍の発生に必要不可欠な役割を果たしていることが明らかにされて以来、ヒトにおいて精神的ストレスのみで消化性潰瘍が発症するかに関しては、再検証が必要となっている。大規模自然災害時には多数の人に強度なストレスが同時にかかることになり、ストレスと消化性潰瘍の発生について検討する貴重な機会である。1995年の阪神淡路大震災では消化性潰瘍、とくに胃潰瘍が急増したことが報告されたが、そのほとんどは <i>H. pylori</i> 感染者であり、胃潰瘍の発生にはやはり <i>H. pylori</i> 感染が重要との結論に至っている。今回の検討では、震災後消化性潰瘍の成因について調査し、潰瘍発生とストレスとの関連について検討することを目的とする。</p>		
方法	<p>東日本大震災で大きな被害を受けた関連基幹病院8施設（東北大学病院、気仙沼市立病院、石巻赤十字病院、塩釜市立病院、大崎市立病院、栗原中央病院、宮城県南中核病院、いわき市立磐城共立病院）において、震災発生直後（3月11日）から3か月間に新たに診断された消化性潰瘍症例について、居住地・被災・避難状況（精神的ストレス）、震災に伴う受傷（身体的ストレス）、基礎疾患、潰瘍の性状（部位、数、出血性の有無など）<i>H. pylori</i> 感染、非ステロイド性消炎鎮痛剤（NSAID）などの服薬歴、また出血性潰瘍症例については内視鏡的止血術の有効性に関して、診療録を基にレトロスペクティブに調査を行う。さらに、各施設の前年同時期の消化性潰瘍症例についても同様に調査を行い、比較検討を行う。</p>		
問い合わせ・苦情等の窓口	東北大学病院消化器内科 飯島克則 022-717-7171		